

## 「クラス懇談会」

田丸 あけみ

気持ちも新たに新年度が始まり、一か月が経ちました。

アトムは、互いに「支え合い」「助け合い」ながら一緒に子育てをしていく子育て仲間として、大人同士の関係作りを大切にしています。

そのために懇談会はお互いの事を知る場、悩みを共有する場、子ども理解を深める場として大事な位置づけとしています。保護者同士が直接話しをすることで、様々な価値観がある事に気づいたり、その人となりを知れたり、共感しあえたり、時には涙する事もある。そんな懇談会を通してたくさん心を動かしてほしいと思います。そんなやりとりの中から、自分を知り、他者を知る事に繋がっていくと思うのです。それは、ヒトが人として育つ上でとても大切なプロセスとして捉えています。

懇談会では、子どもの話もちろん大事にしますが、大人の話し合いをテーマにする事も多くあります。お互いの理解を深め、肩肘はらない関係性は、よその子も自分の子もみんなと一緒に育てていくという広い視野を持つ事に繋がっていくと考えているからです。そして、子ども達はそんな大人の関係性を見ながら育っていくのです。

ぜひ、積極的に懇談会に参加して「私は…」という自分を存分に語り、大人同士も子ども達と同じ様に、自己表現してほしいと思います。

私にも小6の一人娘がいます。1歳児から5歳児までアトムっ子として育ちました。当時の私は、いつも時間と子育てに追われ余裕もなく、家族間もうまくいかず、息詰まる事が多かったのですが、いつも私の話を聞いてくれる仲間がアトムにいました。夫婦間や子育ての事など、職員や保護者、色んな人に話を聞いてもらいました。しんどさを聞いてもらい、自分とはまた違う価値観の人から投げかけてもらい、考え直したりしながら、気持ちを少し楽にして、また日常を迎える。そんな日々を繰り返していました。私はアトムの職員ですが、一親としても乳幼児時代の子育てを支えてもらい、今も支えてもらっている一人です。毎日、慌ただしく過ぎていく日々だからこそ、ふと立ち止まって考える時間としてもぜひ懇談会を活用して下さい。

少し余談ですが…

小さい頃は、手のかかる娘に「早く大きくなってほしい…」と思っていましたが、今こうして大きくなってみると、保育園時代が懐かしく思い出されます。先日、新聞の記事に目が止まりました。「もし一日だけ我が子が小さい頃に戻るとしたら何をしたい？」という内容のものでした。私は真剣に考えてしまいました。そして出た答えは・・・『抱っこしたい！！』でした。小さい頃は、抱っこする事が当たり前でしたが、今こうして抱っこが出来なくなってしまうと、“無いものねだり”をしたくなる母心が湧いてきました。